



■ 保健環境研究センター7月だより ～咽頭結膜熱（プール熱）～

【保健環境研究センター7月だより ～咽頭結膜熱（プール熱）～】



夏かぜの大半（80～90％）はウイルス感染によるものですが、これから夏にかけてピークを迎える咽頭結膜熱は、アデノウイルスによるものでプールを介して児童や園児に感染することから“プール熱”とも呼ばれています。アデノウイルスは51種類に分類されており、咽頭結膜熱（プール熱）の原因となるのは主に3、4、7型です。

主な症状としては、結膜炎（目の充血）、咽頭炎（のどの痛み）、急激な発熱（39～40℃の高熱が4～5日）があげられますが、その

現れ方や程度には個人差があるようです。咽頭結膜熱は学校感染症に指定されており、主症状が消えてからも2日間は登校（園）できないと定められています。図に示したように、本県では今年は例年に比べて4～5月の報告数が多く、夏に向けてさらに増加する可能性があります。

アデノウイルスには対症療法が中心で、感染力も強いので、水泳後には手や目を洗ってうがいをし、体もシャワーで流しましょう。また家族内に感染者が居る場合は、タオル、食器類、寝具は別にするなど、家庭内感染を避ける工夫も大切です。

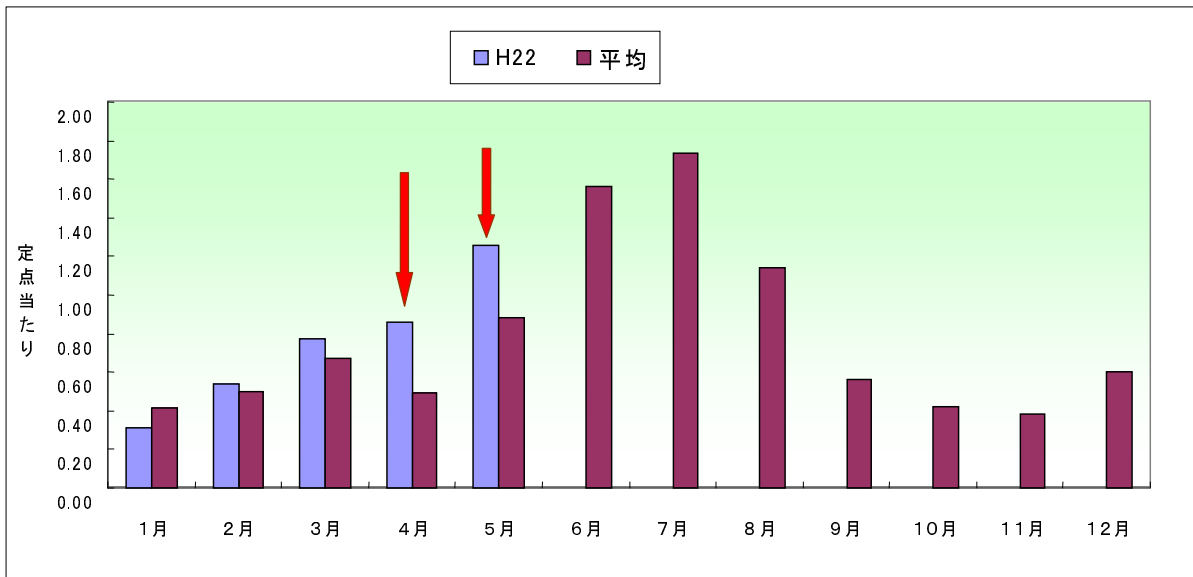


図. 奈良県における咽頭結膜熱の過去10年間の月別平均報告数と平成22年の状況

（ウイルスチーム 大畑 記）